

令和 5年 2月 22日

大津町議会議長 桐原 則雄 様

大津町議会議員 田代 元気

## 自 己 研 修 成 果 報 告 書

大津町議会議員の自己研修に関する実施要綱第4条により、先に実施した研修について、次のとおり成果を報告します。

### 記

1. 研修日時 令和5年2月20日、21日

2. 研修先 熊本県宇城市、人吉市、水上村

3. 研修目的 宇城市に令和4年4月にリニューアルオープンした不知火美術館・図書館を視察し、指定管理者制度による管理運営がどのように行われているのかを確認するとともに、施設の状況を確認することを目的としました。

また、人吉市においては、令和2年の豪雨災害からの復興状況の視察と、行政からの支援や、災害に対する備えについて研修することを目的としました。

水上村では、トレイルランの整備や、陸上競技チームの合宿の誘致や、奥球磨ロードレースの開催について意見交換及び、施設の視察を目的としました。

4. 成果(具体的に)

宇城市において、令和4年4月にリニューアルオープンした不知火美術館・図書館は、蔦屋書店を運営するカルチュア・コンビニエンス・クラブ(株)が指定管理者として運営を行っており、美術館は休館日で視察はできませんでしたが、図書館については、幅広い年代の方が数多く訪れており、読書や勉強を行っていました。

こども図書館は別棟にあり、子ども連れでも他の来館者には迷惑がかかりにくい施設でした。

また、スターバックスコーヒーも館内で営業しており、ほとんどの方が購入されている印象を受けました。



宇城市の研修において、不知火美術館・図書館は、オープン1年未満の施設ですが、市内・外から平日で800人、週末は1500人ほどの来館者が訪れる人気スポットとなっていました。

指定管理者による施設運営で、開放的な空間やレイアウト、大手書店を運営されている企業のノウハウを存分に発揮している運営を行っているという印象を受けました。

今後、大津町においても、限られた施設、財源の中、どうしたらもっと良い施設になるのかを考え、提言していきたいと思います。

次に、人吉市では、令和2年の豪雨災害により甚大な被害を受けた、青井阿蘇神社と周辺の商店街の視察を行い、人吉市中心部から少し離れた、大和一酒造を訪問し、社長自らの発災時の様子や、被災後のさまざまな方からの支援や復旧のお話を伺いました。

また、青井阿蘇神社の本殿や楼門前の橋は見事に復旧していましたが、社務所などはまだまだ復旧道半ばでした。

近くでカフェを経営されている方にお話を伺うと、店舗は、腰あたりまで浸水し、店内は勿論、食器類や調理器具、店内の家具などほとんどが使えない状態だったことで廃業を考えたが、行政をはじめ、多くの方のご支援があり、昨年ようやく再開できたとの事でした。まだまだ、災害前の客足まで戻ってはいませんが、多くの支援を受けたことに感謝し、今後も頑張っていきたいとの事でした。



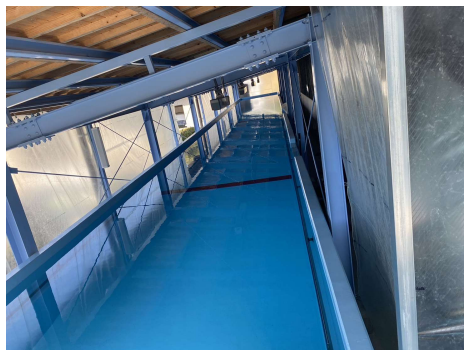


水上村においては、トレイルランコースの整備後の状況、奥球磨ロードレースの開催や、スカイビレッジ、サクラビレッジへの合宿誘致について説明を受け、意見交換及び、サクラビレッジの現地を視察しました。

トレイルランコースや、スカイビレッジには、陸上の社会人チームや、箱根駅伝上位常連校が毎年合宿に訪れており、そのほとんどが、村内に宿泊し、地元の観光業にも大きく寄与されているとの事で、観光や飲食のみならず、来村された選手による子どもたちへの陸上教室の開催など、村の振興に大きく貢献されているとの事でした。

また、奥球磨ロードレースについては、日本陸連公認の大会という事もあり、招待選手以外にも記録を狙う観点から、有名陸上選手や、その年の箱根駅伝で活躍された選手が数多く参加されており、村にとって一番のイベントとなっているようでした。

今後は、スカイビレッジには、400メートルトラックや、サッカーコート整備を目指し、更なる振興を図っていききたいとの、村の担当者の強い思いを感じました。



今回の2日間の研修で、時代に沿った図書館運営や、災害からの復興、スポーツによる村おこしなど、大変有意義な視察研修となりました。

本町には素晴らしい施設があります。もっと有効な施設運営ができるよう今回の研修を活かしていきたいと思えます。